中学歴史プリント（書き取り）
弥生時代 No.7

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／19

1. 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？
2. 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？
3. 佐賀県に位置し、環濠集落の中でも大規模で、高床倉庫や物見やぐらが復元されていることで知られる遺跡は何という？
4. 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？
5. 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？
6. 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？
7. 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？
8. 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？
9. 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？
10. 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？
11. 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？
12. 縄文土器と比べて薄く作られ、煮炊きに適していたのはどのような温度で焼かれたから？
13. 江戸時代に金印が発見されたと伝えられている、現在の福岡県にある島は何という？
14. 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？
15. 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？
16. 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？
17. 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣鐘状の青銅器を何という？
18. 3世紀ごろの倭で、30ほどのクニをまとめた女王が治めたとされる国を何という？
19. 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「弥生時代」のプリント一覧がひらきます

答え合わせ・解説 No.7 弥生時代

言えた　／19

① 書く
鉛筆で答えを書く

② 隠して言う
赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

③ 印を付ける
言えたら□にチェック

問	解説 ▼ここで折る	答え	言えた
1	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に**祭祀**の場で神聖な道具として使われました。	**祭祀**	□
2	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である**光武帝**は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。	**光武帝**	□
3	**吉野ヶ里遺跡**は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。	**吉野ヶ里遺跡**	□
4	**銅鐸**は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。	**銅鐸**	□
5	青銅器の中でも、銅剣・銅矛は九州北部を中心とする西日本に、銅鐸は近畿地方を中心に多く出土し、文化圏がはっきり分かれていました。	**九州地方**	□
6	『**後漢書**』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。	**後漢書**	□
7	**漢鏡**は、中国の漢王朝で鋳造された銅鏡で、高い鋳造技術による精巧な文様が特徴です。	**漢鏡**	□
8	**鉄器**は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。	**鉄器**	□
9	**光武帝**は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。	**光武帝**	□
10	柱の途中に板状の出っ張り（**ネズミ返し**）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。	**ネズミ返し**	□
11	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『**魏志倭人伝**』と呼ばれます。	**魏志倭人伝**	□
12	**高温**で焼くことで強度が上がり、煮炊きに適した薄い土器を大量に作ることができました。	**高温**	□
13	福岡県の**志賀島**で、農作業の最中に石の間から金印が発見されたと伝えられています。	**志賀島**	□
14	当時の日本は「百余りの**小国**」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。	**小国**	□
15	**青銅器**は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに鋳造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。	**青銅器**	□
16	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である**後漢**の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。	**後漢**	□
17	**銅鐸**は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。	**銅鐸**	□
18		**邪馬台国**	□
19	**稲作**が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。	**稲作**	□

言えなかった用語ノート